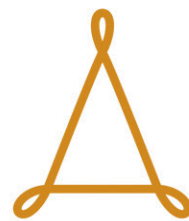


# 北のとびら



HOKKAIDO  
ARTS FOUNDATION

発行／財団法人北海道文化財団

特集

## おらが町のオーケストラ

小林 佳奈／牧野 貴博／牧野 時夫

インタビュー

斉藤 征義

[赤い夕陽の爺<sup>ジュリー</sup>yulie 脚本・演出]



87

DECEMBER 2010

## 광주연극협회 다시라기 —再生—

平成22年11月19日[金]-20日[土] 生活支援型文化施設 コンカリーニョ  
 主催:財団法人 北海道文化財団  
 共催:札幌劇場連絡会、さっぽろアートステージ実行委員会  
 入場者/2公演合計300名



# 北のとびら

No.  
**87**

DECEMBER 2010

表紙/「赤い夕陽の爺yulie」の撮影風景(むかわ町穂別)

まちの文化創造事業(共催事業)  
 ギャラリープログラム  
 「北の情熱・制作事業」

## CONTENTS

02 Stage  
 タシラギ—再生—

04 インタビュー  
 斉藤 征義  
 (赤い夕陽の爺yulie 脚本・演出)

06 **特集**  
 おらが町のオーケストラ  
 小林 佳奈/牧野 貴博/牧野 時夫

08 北海道の食 [第3回]  
 小麦~人と土地のつながりとしての役割~

10 地域からのお便り  
 ・井の中のカワズの冒険者たち  
 ・コミュニケーション教育・アウトリーチ事業(音更町)

12 この街この人 [第14回]  
 福島町

14 アートギャラリー [第18回]  
 鈴木 涼子 (現代美術家)

## 15 Information

「北のとびら」は、全道の文化ホール、文化施設などで  
 ご自由にお持ちいただけます。  
 ※定期的に購読をご希望の場合、直接当財団へお問い合わせください。



資源の保護と環境への配慮を考え、本紙には古紙再生紙、  
 インクは大豆油インキを使用しています。

取材・文/對馬 千恵  
 写真/西山 大介

## 歌あり、笑いあり 死と生を考えながら韓国文化に触れた演劇交流

2007年からスタートした「韓国演劇協会光州広域市支会」との文化交流事業。初回は札幌の劇団TPSが、「光州平和演劇祭」で公演を行ったことを皮切りに、交互に両国を行き来する文化交流が続いています。

4年目となる今回は、光州演劇協会による「タシラギー再生」が、生活支援型文化施設「コンカリーニョ」で2日間2ステージにわたって上演されました。

「タシラギー」は、朝鮮半島南部の珍島(チンド)地方に伝わる葬礼風習です。舞台は葬儀の場から始まり、歌と踊りの伝統芸能で死者を送る、「タシラギ(再び生まれるという意味)」が繰り返されていきます。弔問の場には偽の喪主、そして「あの世の使者」が現れます。偽の喪主は、使者を偽

者だと言って村人たちと一緒に棺に閉じ込めますが、身重の盲人の妻は棺を開けてしまいます。妻を連れて行かれた盲人は二人を追いかけますが、妻は急に産気づいてしまいました。使者は誰かをあの世に連れて行くと言い、舞台は生と死が入り混じった世界へと入っていきます。

現代演劇の作品ではなく、古典作品の再演出でしたが、劇場には字幕が用意され、笑いを誘う台詞回しなどでユーモアたっぷりに楽しむ舞台づくりでした。さらに、韓国の伝統芸能や風習、死生観などが伝わる見事な歌唱と演奏を交え、言葉という国境を感じさせない、観客と一体となった公演となりました。また、楽日には一般市民との交流会が行われました。



写真/高橋 克己



### ■文化交流事業 (文化提携交流事業)

道内の優れた文化団体を海外に向けて発信し、海外の文化団体の招へい公演を行うことにより、道内の文化活動の一層のレベルアップをはかり、海外とのネットワークづくりをすすめる事業です。

#### 〈これまでの交流内容〉

- 2007年 札幌の「劇団TPS」が、「冬のバイエル」を「2007 光州平和演劇祭」にて上演
- 2008年 韓国の劇団「青い演劇村」が、「阿娘別曲(アランビョルゴク)」を「札幌劇場祭Theater Go Round 2008」にて上演
- 2009年 釧路の「劇団北芸」が、「この道はいつか来た道」を「2009 光州平和演劇祭」にて上演、「光州平和演劇賞」を受賞





「赤い夕陽の爺 Yūrii」脚本・演出



# 斉藤 征義

## 100年後の観客を

## 思い浮かべてつくる映画

日高山脈のふもとの町、穂別町(現・むかわ町穂別)で、高齢者だけで初めて取り組んだ、ミュージカル映画「田んぼ de ミュージカル」が誕生したのは2003年のこと。作品づくりは思いがけなく2作目、3作目と進み、今年9月から、ファイナルとなる4作目の「赤い夕陽の爺 Yūrii」の制作がスタートしています。1作目から脚本・演出を務める斉藤征義さんにお話を伺いました。

### 映画づくりの下地があった穂別

65歳以上だけで映画をつくる、ということになった時は、映画の知識を持たない、お年寄りだけというメンバーで本当につくれるのかと周りから言われました。ですが、実は穂別にはものづくりの下地がもともとあったといえます。

4作目のモデルにもなっていますが、穂別の最初の民選村長となった横山正明さんは、戦後の疲弊した時期に村立高校をつくり、道内初のスクールバ



スを走らせたりと、理想の村づくりに燃えた人でした。その横山さんが提唱していたのが、宮沢賢治の描いた架空の理想郷「イーハトーブ」です。農民の生活が芸術や文化に支えられ、楽しく生き生きとしたものになってほしいという想いは、その後も穂別の人々に伝えられ、これまでに「野外詩劇」などが行われたりしていたんです。そういった下地があって「映画と地域づくり」という講演会に崔洋一監督をお招きしたのが、映画づくりのきっかけでした。打ち上げの席で、「わしら

でも映画はつくれるべか？」とお年寄りたちが崔監督に聞いた。「できる！ できる!!」。

それで乗り気になって、野外詩劇などのシナリオに関わっていた私が脚本を頼まれました。崔監督も本腰を入れて手伝ってくれることになり、「ただの映画じゃなく、ミュージカルでももしろおかしくしていこう」と話がどんどん、ふくらんでいきます。

### 「町おこし」ではなく「町のこし」を目指して

よく「お年寄りたちによる

映画づくりで町おこし」と紹介されるんですけど、私たちがやっているのは、穂別の人たちがどんな思いでこの町をつくってきたか、それを記録に残すことなんです。

1作目の「田んぼ de ミュージカル」は、苦勞してつくった水田を、減反政策でメロン栽培に切り替えていかなければならない、という父と息子・家族の物語。

2作目の「ラ・リズィエール 田んぼ de ファッションショー」は、穂別の衣・食・住の歴史、「衣」に対する村人の想い。

3作目の「いい爺いライダー」は、村の合併に反対する村人の心の葛藤をドラマで表現しました。戦後、まだ村には車がなく、役場の人も農家の人もバイクに乗っていません。その記憶をドラマティックに脚色して作品化しています。「お年寄りがなぜバイク？」と思うかもしれませんが、それが村人の体験であり歴史なのです。

町が消えても、人が消えても、映画は残る。映画は100年後も誰かに観てもらえます。それだけに「クオリティの高いものを目指せ!!」と崔監督から言われました。だか

## PROFILE



帯広市出身。元穂別町職員。日本全国で詩の朗読活動や講演活動を行いながら、「ほべつ銀河鉄道の里づくり」や「ほべつ町民劇場」の活動など生活に根ざした地域づくりを実践。「田んぼ de ミュージカル委員会」はその取り組みが評価され、「地域づくり総務大臣賞」など表彰多数。斉藤さんは、今年度の「北海道文化賞」を受賞。



斉藤 征義  
Masayoshi Saito



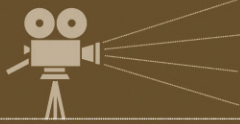
「田んぼ de ミュージカル」

### ■まちの文化創造事業(共催事業)

地域のみなさんが参加する自主的・創造的な、美術、文芸、映像等の各種文化発表活動及び普及活動(ワークショップ、レクチャー等)を共催します。

### ●ギャラリープログラム

- ・一般市民が参加し、普及活動を伴う展示会など
- 「北海道立体表現展」「SAPPORO エコデザイン展2010」など
- ・公募キャストによる地域を題材とした映画制作など



ら、私たちがやっているのは「町おこし」ではなく「町のこし」なんですよ。

いつのまにか映画に夢中になっていた

4 作目「赤い夕陽の爺 yulie」は、戦後の穂別を題材にしています。村の復興と開拓に賭けた男たちのドラマに焦点をあて、村を乗っ取るうとする炭鉱のボスト、村の保安官として活躍する獣医師の戦いを西部劇仕立てで撮っています。穂別に炭鉱があつた頃は、5 つぐらいの小さな集落ひとつずつに映画館がありました。その頃流行った憧れの西部劇をやりたい、という要望がお年寄りたちからもありましたし、その時代は穂別の人口が最も多かつた頃です。その活気溢れる姿を映画に残したいと思ってきました。4 作目は本当に最後です。4 作目は本当に最後です。4 作目は本当に最後です。

第1作目の頃、みんな初体験でしたから大変でした。私も映画の脚本(スクリプト)なんて初めてでした。しかしお年寄りたちの情熱と、スタッフたちの意気込みは、ものすごく熱



撮影現場・酒場のセットにて

いものがありました。脚色しであるとはいえ、自分たちの経験がドラマになるわけですから、89歳のカメラマンも、79歳のメイクさんも、自然に若い頃を思い出して真剣になっています。お金や時間というプロが持つ制約がないから、純粋な気持ちで映画に取り組める強みが私たちにはあるんです。

それに映画のおもしろさは、みんなでひとつのものをつくり上げるということにあります。例えば今回の酒場のセットは、80歳を過ぎた方が造つたのですが、その方は西部劇のDVDを観て研究してききましたし、衣装担当の主婦の方たちもどんでんアイディアを出し、私が脚本に書かなかったことまでも表現していききました。気がついたら、みんな映画づくりにのめり込んでいました。それぞれが、自分では気がつかなかつた創造の扉をあけたんですね。映画をつくり始めて、町には笑顔が増えました。この映画を観てくださる方にも、笑顔になつてもらいたい。お年寄りが歌って踊って、自分たちのドラマを語る姿を見て、100年後の人にも楽しんでもらえる映画にしたいですね。

文化情報提供事業 (北の情熱 ~文化・芸術活動の事例集~)

- 音更町 広げよう! コミュニケーションの輪~カッコープロジェクト進行中~
- 鷹栖町 舞台賞します~熱鬧三分間劇場・舞台でつながる地域と地域~
- 新冠町 よみがえる心~レ・コード&音楽で町づくり~
- 富良野市 演劇に出会ったまち~へそのまちに根付く市民活動~
- 穂別町 わしらにもできるべか~「田んぼ de ミュージカル」とその後~
- 浦河町  
穂別町  
釧路市他 高齢者パフォーマンスライブ「浪漫劇場」  
~演じて歌って福が来る~
- 砂川市 合言葉はスマイル~砂川劇場物語 妖怪達がやってくる~
- 朝日町 体験版 芝居で遊びましょ~あさひサンライズホールから次の世代へ~

(動画はホームページのアーカイブから無料で視聴いただけます)



「赤い夕陽の爺yulie」の撮影風景  
北海道庁旧庁舎(赤れんが庁舎)前広場にて



「いい爺ライダー」



「ラ・リズィエール  
田んぼ de ファッションショー」

# おらが町のオーケストラ

小林 佳奈 × 牧野 貴博 × 牧野 時夫

クラシック音楽の中でも、主にオーケストラ活動を活発に続けている方々に、音楽シーンを身近にしていけるための日々の活動について語っていただきました。



**小林** 私は現在、札幌を中心にフリーで演奏活動をしていす。ソロや少人数編成での演奏が多いのですが、2006年と今年「PMF」という世界各国から若手演奏家が集まる場で演奏させてもらい、オーケストラの楽しさを知ることができました。道内でアマチュアオーケストラを立ち上げ、長く演奏活動を続けるお二人にお話を伺いたのですが、まず活動のご紹介からお願いします。

**牧野(貴)** 「帯広交響楽団(以下、帯響)」は帯広市民文化ホールが出来る時、地元のオーケストラで柿落(かきおち)としを、ということとメンバーを集めたことから始まり、今年で創立23年目を迎えます。毎年の定期演奏会のほかに市民オペラ、市民バレエ、合唱団などと特別演奏会という形で共演しており、十勝で幅広い演奏活動を行っています。

**牧野(時)** 「北海道農民管弦楽団」は、農家を中心になっているオーケストラで、現在60名以上います。メンバーの中には農業試験場の方ですとか、農家ではなくても農業関係の方もいます。北は興部町、南は北斗市から幅広く団員がいて、農閑期に定期演奏会を続けて、も

う17年になります。

## 活動を通じて生まれる地域とのむすびつき

**小林** 「北海道農民管弦楽団」は全国でも珍しい活動と聞きました。オーケストラをつくるきっかけ・コンセプトは、どういったものだったんですか？

**牧野(時)** 世界でも珍しいかもしれませんが、農民オーケストラは、今から80年前、労働と芸術が一体となった生活「農民芸術」を志した宮沢賢治が始めたもので、実際に農業青年たちに音楽を教え、演奏会を開こうとしていました。私自身、農業をやりたいという夢を学生時代から持っていたのと、ヴァイオリンを大学のオーケストラで弾いていたので、演奏を続けたいという気持ちがありました。特に北海道は長い冬の農閑期が訪れるため、その期間に集中して練習ができるのでは、と思ったんです。たまたま僕だけじゃなく、同じように考える有機農業の仲間がいたので、まず4人で呼びかけ始めたんです。賛同してくれる農業関係者も仲間に入れながら、演奏活動を各地で続けることで

徐々に農家のメンバーが増えて現在の形になったんです。

**牧野(貴)** 練習の場所、期間が大変そうですね。

**牧野(時)** メンバーは各地にいますし、農閑期限定ですから札幌で10回ぐらい練習をして、本番の演奏会は道内のどこかでということになります。毎回違う所で演奏しますから、メンバーが主催者になることもあれば、地元の人の実行委員をつかって呼んでもらうこともあるし、毎回それぞれ場所によって変わるんですね。それがまた魅力でもあるんです。

**小林** 「帯響」ではどんな運営を？

**牧野(貴)** ありがたいことに、「帯広市文化スポーツ振興財団」に事務局をおかせていただいています。また、資金は一般市民や企業の賛助会員の援助から成り立っているんです。市民や行政に支援を受けているのは「帯響」の大きな特徴です。ですから、アマチュアではありませんが、「おらが町のオーケストラ」として市民の要望に応えていきたいという気持ちがあります。

**小林** それで市民オペラや市民バレエの方々の共演が続いていっているんですね。

**牧野(貴)** それが皆さんへの還元だと思っています。それに、「帯響」があるから公演ができる、と市民団体の方から言われると張り合いもありますね。

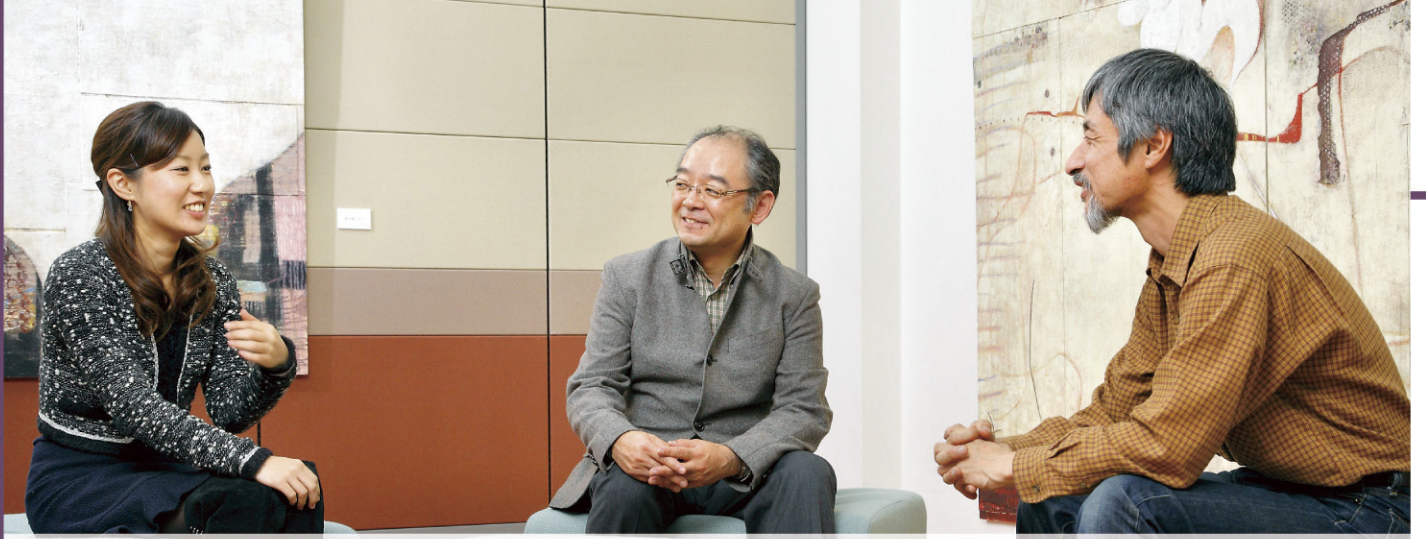
**小林** 札幌や東京からプロの指揮者を招いて指導を受けているそうですね。

**牧野(貴)** 亡くなられた指揮者の石丸寛さんが以前、ご自身でマイクを取られて客席に向かつて、こうおっしゃったんです。「今日演奏するのは、みなさんの町のオーケストラです。いい演奏だったら、うんと拍手をしてあげてください。逆に、悪い演奏だったら叱ってあげるのも応援です」と。会員には毎回招待券を送っていて、固定客も多く、演奏の良し悪しも言っていただけのように感じました。そういう土壌が20年以上経ってできてきたと思いますね。

## 仕事とつながる音楽活動

**小林** 農民オーケストラのやりがいというのは、どんなところなのでしょう。

**牧野(時)** 僕にとって農業は生活の糧でもあり、音楽をやる



場所:北海道文化財団内「アートのスペース」(展示:朝地 信介)

**Kana Kobayashi**  
**小林 佳奈**  
ヴァイオリニスト



北海道教育大学札幌校芸術文化課程音楽コース卒業。2006年にPMFオーケストラアカデミー生として参加。今年度も参加し、コンサートミストレスを務める。リサイタルや各種の演奏会に出演しながらヴァイオリン講師も務め、若手演奏家として注目を集めている。

**Takahiro Makino**  
**牧野 貴博**  
「帯広交響楽団」  
コンサートマスター



'87年に設立された「帯広交響楽団」の結成から参加し、コンサートマスターに就任。「帯響」の顔として親しまれている。「牧野ヴァイオリン教室」を主宰するほか、ソロ・室内楽にも力を入れている。2007年、十勝文化団体協議会「文化奨励賞」受賞。

**Tokio Makino**  
**牧野 時夫**  
北海道農民管弦楽団  
代表・指揮者



'92年に余市町で有機農園「えこふあーむ」を開き、'94年に「北海道農民管弦楽団」を設立。農業と音楽を教える「農民芸術学校」を目指し、国内外で活動が続いている。

北海道農民管弦楽団 第17回定期演奏会  
(デンマーク演奏旅行国内プレ公演)  
公演情報  
【日時】平成23年1月30日(日)14時開演  
【場所】江別市民会館

**若手芸術家発表事業<夢の畑シリーズ>**  
**2台のヴァイオリンとピアノによるコンサート**

今夏PMFのアカデミー生としてコンサート・ミストレスを務めた、ヴァイオリニスト・小林佳奈さんをはじめとする若手演奏家によるクラシックの名曲や映画音楽などの演奏会を行います。



長谷川 加奈  
(ヴァイオリン)



谷敷 さなえ  
(ピアノ)

●今後の予定

【社警町】

【日時】平成22年12月21日(火)18時30分開演  
【場所】社警町地域交流センター山美湖  
【入場料】500円(高校生以下無料)  
【問合せ】社警町地域交流センター山美湖(社警町教育委員会)  
TEL.0142-66-2131

【新十津川町】

【日時】平成23年2月7日(月)19時開演  
【場所】新十津川町ゆめりあホール  
【入場料】500円(中学生以下無料)  
【問合せ】新十津川町教育委員会 TEL.0125-76-4233

【北斗市】

【日時】平成23年2月9日(水)18時30分開演  
【場所】北斗市総合文化センター「かなで〜る」  
【入場料】500円(中学生以下無料)  
【問合せ】北斗市かなで〜る協会(北斗市教育委員会) TEL.0138-74-2000

【苫前町】

【日時】平成23年2月20日(日)14時開演  
【場所】苫前町公民館講堂  
【入場料】500円(中学生以下無料)  
【問合せ】苫前町教育委員会 TEL.0164-65-4076

※料金等、詳細はホームページをご覧ください。

**アルテ ポルト**

北海道文化財団内の展示スペース「アルテ ポルト」では、1作家1ヶ月という期間で作品を紹介しています。また、出品作家による「ミニトーク」も開催します。

展示 & ミニトーク  
●12月:阿部 典英 展  
●1月:お正月顔見せ展(平成23年 出品作家11名)  
●2月:藤本 和彦 展/ミニトーク(調整中)

※「ミニトーク」の日時等、詳細はホームページをご覧ください。

ためのものでもありません。ですが、農業そのものの達成感もあるんです。農業をやることで音楽に対する力が湧いてくるんですよ。お互いが助け合うっていうか。

**牧野(貴)** 歯車が噛み合ってくるんですね。生活自体に自然ととけこむような。

**牧野(時)** 最近、おもしろいことに、今まで農家ではなかったメンバーの中から、農家になる人が出てきているんです。去年から農民オーケストラに興味を持って参加している人が、いま農業研修生として自分の農場にいらんです。今は、農家でも高齢化が進んでいて、若い人たちが入ってきてくれないと、農業自体がもうやっけない時代なんですよ。でも今

後そういう形で新しく農家になる人が出てきてくれるとうれしいなと思っています。

**音楽をより身近なものへ**

**小林** 私は今年「PMF」に参加して、あるプログラムではコンサートミストレスを任せられました。世界中から優秀な若手の演奏家が集まっているので、リーダーシップを取るのが難しかったです。でも、指揮者や世界を代表するオケのソリストクラスの人たちと同じ時間を共有し、ギターなどでの演奏はとても楽しかったです。その経験を活かして、自分が出演する機会、そして、たくさんの人に聞いてもらう糸口、アイ

ディアを増やしていきたいと思いました。

**牧野(貴)** 「帯響」では小学校低学年に向けて、オーケストラの楽器に触れて体験する音楽教室を年に1回開いています。楽器に触れてからコンサートを聴くと、興味の持ち方が全然違うんです。ステージと客席の差が縮まるというか。今後も地域のいろいろな活動に参加して、おらが町の活動を深めていきたいですね。

**牧野(時)** 私たち「北海道農民管弦楽団」は、ある意味、限定された地域がありません。その自由さを活かして、オーケストラがない地域で演奏し、土のにおいを感じられるような音楽の楽しさを広めていきたいと思っています。

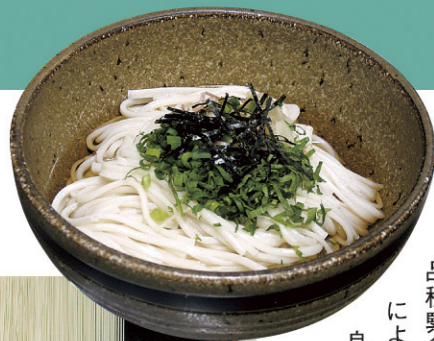
豊かな食に恵まれた北海道。しかし、「北海道の食」はさまざまな物語をへて今にいたっています。食の地産地消を通じて見えてくる北海道の食の歴史や生活文化を、全4回にわたってご紹介します。

## 第3回 小麦～人と土地のつながりとしての役割～

開拓史が設置された明治2年直後に、道央で始まった小麦栽培。

北海道の歴史ともつながりが深く、近年は洋食化にともなってパンや麺に適した品種の栽培が進められています。

小麦づくりを見直すことで、町づくりにも一役買っている活動をご紹介します。



### 手延べ麺の伝統が育んだ 小麦の町、下川町

ど

う

ん

冬はマイナス30℃にもなる下川町。その厳しい冬があつてこそ生まれるのが、強いコシと風味をもった「下川手延べ麺」です。

道内でも有数な製麺事業所の創業の地である下川町の、「下川手延べ麺」の歴史は昭和40年代までさかのぼります。当時、米穀店の店主と製麺事業所の代表は、農業の副業としてこの気候を活かした手延べ麺の製造を思いつき、本場兵庫から技術を取り入れました。

しかし、当時原料に使われていたのは、麺づくりに適したグルテンが多く含まれている海外産の小麦。道産の小麦を使うようになるには、'99年の農林水産省による「小麦新産種緊急開発プロジェクト」による、麺づくりに適した良質の小麦が誕生するのを待たなければなら

りませんでした。

また、小麦粉は大口ツツでの製粉しか出来ません。そのため、下川町の小麦はすべて北海道産としてひとつつくられていました。

しかしながら、近年になって小ロットで製粉が可能になった「小麦粉小規模生産システム」が開発され、「下川町の小麦」と呼べる小麦が誕生したのです。「自分たちの町の小麦」が出来たことで、町の人々の意識は大きく変化しました。小麦農家はもっと美味しい小麦づくりを目指し、町の人々は「下川町の小麦」でつくったパン、ビール、小麦酢などの製品を次々と開発し始めています。町の小麦をもっと美味しく、より親しみやすく。下川町から、新しい小麦の歩みが刻まれようとしています。





## 十勝の食材のおいしさを 麦チェーンで



小麦の国内最大産地である北海道。十勝地方はその約4割を占め、日本一の小麦生産量の規模を誇っています。にもかかわらず、生産量の90%以上は道外へ出荷されるため、産地の人々の口に入らない、原料出荷型の生産物でした。しかし、時代とともに消費者の食への関心は急激に高まってきています。

「顔の見える生産者から安全な食材を手に入れたい」。



そんな地元からの要望をかえらられるよう、十勝の素材を地元で加工し、地域で付加価値をつけていこうという取り組みがはじまりました。そして、さまざまな十勝の食材を乗せられるピザに、視線が集まるようになります。

外国産小麦から道産小麦への利用転換を目的に、北海道が平成21年度から進めている「麦チェーン」事業。地元小麦の消費活動が活発だった帯広市は、その最初のモデル地域の1つとして認定され、取り組みの結果、小麦のみならず、トッピングの具材もすべて十勝産の「十勝ピザ」が誕生しました。さらに、帯広農業高校の食品科学科が取り組む、自校で育てた小麦を活用した「十勝ピザコレクション」の取組と連携し、高校生のアイデアを活かしたピザづくりを行うなど、十勝ピザの取り組みは広がっています。

地元の食材を地元から味わう楽しみを。無数の組合せが生まれるピザは、そのまま十勝・北海道の未来につながります。

## ハルユタカから花ひらく 道産小麦の可能性



「道産小麦を使用しています」。そうPRするベーカリーを、最近よく見かけるようになりました。道産小麦ではパンをつくれないうちが、ある時代もありましたが、ある小麦の生産・流通がきっかけで変化が起きました。その小麦が「ハルユタカ」です。

昭和60年代に誕生したハルユタカは、江別の製粉会社から販売したパン用ミックス粉として使われたのをきっかけに、「香りがよい」「食感がよい」などの評判で人気を高めました。ところが、雨に弱く収穫量の不安定な品種だったため、生産者から一時敬遠されて、ある時期は「幻の小麦」と呼ばれました。

しかし、江別の小麦生産者が「初冬まき」という栽培方法にたどり着き、再び一定の収穫量を確保できるようになったの

です。

江別から「ハルユタカ」を全道に広げたい。江別の小麦生産者たちは「初冬まき」栽培のデータを蓄積し、栽培技術の学習会を開催しました。この学習会は「小麦サミット」と名前を変え道内各地で行なわれています。

また、江別市では道産小麦の消費拡大を図る目的で「全国焼き菓子コンペ'98 in 江別」を開催。その後も小麦にまつわるイベントを続け、4年に1度江別で開かれる「コムギフェスタ」に発展しました。江別から、消費者へ、そして次世代へ。道産小麦を考えるきっかけが発信されています。





# 地域からのお便り

地域で行われているユニークな文化活動の紹介や、地域のこんな活動が知りたい等の声をお届けしています。

苫前町

## 井の中のカワズの冒険者たち

とままえ町民劇公演実行委員会 委員長 松岡 満雄

平成4年に産声をあげた町民劇団「井の中のカワズたち」は、結成の年からはほぼ毎年公演を重ねてきたが、平成9年の公演を最後に一時停止。平成17年に復活公演を果たしたものの、再び休眠状態に入っていた。そんな中、平成20年度にアートプロジェクト「体験事業」の支援を受けて、固定したメンバーではなく、参加者を広く募集する実行委員会形式の「とままえ町民劇実行委員会」として始動した。メンバーは、以前からのカワズたちを中心としながらも、高校生や会社員、地元YOSAKOIチームのメンバーなど、さまざまな町民を巻き込んだ参加になったことに驚いたものだ。

この年の公演作品『風受けて』は、札幌の脚本・演出家「すがの公（ハムプロジェクト）」さんが、苫前町を素材に脚本を書き下ろしてくれ、これに同じく札幌のNPO法人コンカリーニヨの理事長でもある斎藤ちづさんには、何週間も泊まり込みで演出にあたっていただきなど、今から思えば実に贅沢なものであった。

通しているのは、役者をやりたいたいというよりも、みんなで何かを創る過程に加わりたいという想いである。町民劇では、公演という大きな目標に向けて、日頃の仕事や勉強する立場を離れて、その時のメンバーみんながフラットな立場で仲間になることができる。

翌年の公演もアドバイザー派遣事業により再び斎藤ちづさんの指導を受けながら『1939・インディギルカ号』を上演できたのだ。さらに、この手紙を書きながら稽古を重ねた、第3回目の公演となる『冒険者たち』を、12月5日（日）苫前町公民館講堂を会場に終えたばかりである。

作品づくりに向けて苦楽をともにした仲間は、互いに大きな財産となり、新たなコミュニケーションを築ける。そしてキャストやスタッフのみならず、公演日に足を運んで観に来て下さった観客一人一人も、感動を分かち合うという喜びを楽しみにして下さっている。拍手・笑い・涙…、舞台と観客の一体感が次の上演への道標へとつながっていくエネルギーである。

われわれの町民劇の取り組みは、公演を終了し評価したところで一度リセットし、再び新たに参加者を募集するところから始まる。もちろんリピーターも多いのだが、自然と新しいメンバーも数多く集まってくるようになった。彼らに共

「継続は力」。とままえ町民劇は、これからも新たなメンバーを巻き込みながら、新たな上演作品に取り組んでいこうと思う。そのためには、どのような姿でも歩みを止めることなく、常に笑い合いながらこの取り組みを楽しんでいきたい。



「1939・インディギルカ号」



「冒険者たち」稽古風景



12月5日公演「冒険者たち」



苫前町  
tomamae

### 北海道文化財団 自主事業 実施レポート

文化の宅配便

【本別町】

公演名 ユニット・リトルバレエ

「誰でもわかるクラシックバレエ」

実施日 ワークショップ：平成22年11月23日（祝・火）  
衣装試着体験・公演：衣装展示会  
平成22年11月27日（土）

場所 本別町中央公民館

参加者 ワークショップ32名／衣装試着体験14名／  
公演100名



【えりも町】

公演名 木管五重奏団ウインドアンサンブルポロゴ  
「楽器を楽しもう」小学校公演／一般公演

実施日 平成22年11月8日（月）

場所 えりも小学校（小学校公演）  
えりも町福祉センター（一般公演）

入場者 小学校公演200名／一般公演150名



【仁木町】

公演名 札幌室内歌劇場

実施日 ワークショップ：平成22年11月23日（祝・火）  
公演：平成22年12月18日（土）

場所 仁木町民センター

参加者 ワークショップ47名

【美唄市】

公演名 アン・サリー Talk & Songs「音楽のチカラ」

実施日 平成22年11月21日（日）

場所 アルティピアア美唄「カフェアルテ」

参加者 44名

**コミュニケーション教育・アウトリーチ事業**  
 実演芸術家などのアーティストが、学校活動の一環や、公共的な施設を訪問して芸術普及活動を行う、現場出張型の事業を紹介します。

**音更町・演劇**  
**日常とは少し違う風を学校に**

夏休み明けから十勝管内音更町の木野東小学校で、コミュニケーション教育の授業を担当しました。

四年生の社会科と総合学習に位置づけて社会科見学を劇にまとめ、学習発表会で上演するプログラム。児童数は3クラス120人、授業時間は合計47時間。私と助手役の若い俳優で全体の活動計画作成と指導を担当。地元の音楽家二人が作曲と歌唱指導にあたりました。

コーディネーター役は校長の狩野信也先生です。狩野さんとは、10年ほど前、北海道と開催市町村などによる「北海道舞台塾」音更実行委員会(通称Ca・CCo=community Art Creative Center in Otofuke)で取り組んだ「学校へのアウトリーチ事業」で、5年間「ドラマの授業」を一緒に取り組んだご縁がありました。それ以来、狩野さんは、「十勝表現教育研究会」や「アーティスト・イン・スクール」などで、学校

教育とアートの連携を追求して来られ、今回も以下のような明快なコンセプトを提示されました。

○プロのアーティストの専門性で、学校に新鮮な刺激を  
 ○担任との連携で、良き研修の機会に  
 ○劇創作は「ことば」を引き出す学習の機会に

○「環境」を軸に、子ども達の視野と思考力を広げる機会に  
 ○演技の技術指導ではなく、コミュニケーション学習として展開を

授業は、  
 ①「コミュニケーションと創作表現の基礎活動で、積極性と創造性を活性化」  
 ②「社会科学習とドッキング、三つのグループで創作開始」  
 ③「全体を構成、上演に向けたハーサル」

の3段階で進行了ました。ありがたいことには、担任の先生たちが早くも①の段階から「ドラマ」の核心をつかまれ、二人三脚ならぬ五人六脚(!)の連携が実現していききました。そこで演劇は、学校で何が出来るのでしょうか? また、何を

すべきなのでしょう?

その鍵は、いわゆる「劇的瞬间」かもと考えています。日常とは少し違う風(視点)を教室に持ち込み、子どもたちの知的好奇心や創造性に「酸素」を供給すること。つまり「演劇の力」で、たとえ小さくても学習課題の核心に迫る「劇的瞬间」を出現させ、子どもたちの「! (驚き)」や「? (疑問)」を喚起し、学ぶ意欲を刺激することです。そのためには、学習課題の真髄を見極め、発達段階に配慮しながら演劇的手法を駆使する「技」を磨かねばなりません。

ともあれ、10月15日(金)、4年生120人は心を一つに、楽しみながら堂々と学習発表会を終えました。「演劇の力」で、少しでも違う風を起こせたら、うれしいです。



写真協力:音更町立木野東小学校

劇作家・演出家・NPO法人アートインAsibina理事長、表現教育者 **西田 豊子**

主に児童青少年演劇で劇作・演出に携わっており、ロシア、韓国などの国際協同活動にも参画。表現教育の分野では、(社)芸団協のセミナーや、学校での総合的な学習の時間、公立文化施設の参加型演劇の創作活動などを通じて、先進的かつ豊富な実践経験を持つ。これらの経験を生かしながら、玉川大学芸術学部ほかでの指導も続けている。



**information** 各種事業の案内

**舞台創造支援事業**

柔らかに透明感溢れる歌声で人々を魅了するシンガー、アン・サリーさんを迎えて、「音楽のチカラ」と題したトーク&ソングスを開催しました。



**【新冠町】**

「新冠ジャズワークショップ2010」

(講座5)「新冠レ・コード館ジュニアジャズバンド 定期演奏会(ワークショップ本公演)」

実施日 平成22年11月23日(祝・火)

場所 新冠町レ・コード館町民ホール

参加者 400名

新冠町レ・コード館を会場に、音響・照明効果などの舞台演出を施した、レ・コード館ジュニアジャズバンドによる、定期演奏会(ワークショップ本公演)を行いました。



アルテポルト(アートで賑わう港ミントーク「アルテポルト」で、その月の展示作家によるミントークを行いました。

展示作家 渡會純价

実施日 平成22年11月10日(水)

参加者 21名

展示作家 阿部典英

実施日 平成22年12月8日(水)

参加者 18名



**文化の宅配便公演のご案内(1・2月)**

公演名 金子竜太郎(和太鼓公演)

日時 ワークショップ:平成23年1月28日(金)  
 公演:平成23年1月29日(土)

場所 名寄市文化センター・名寄市民会館

公演名 ウィンドアンサンブルポロコ(木管五重奏)

日時 ワークショップ:公演:  
 平成23年2月1日(火)

場所 真狩村公民館・真狩村中学校

[シリーズ 第14回]

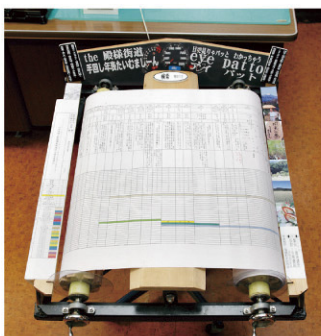
# この街 この人 福島町

人から人へ、そして一人から大勢へ。  
生活シーンでのアートの可能性は、  
人を通して無限に広がっていきます。  
地域の文化力を支えている、さまざまな人たちを通して、  
道内各地の活動を紹介します。

## Fukushima

<http://www.town.fukushima.hokkaido.jp/>

★ 福島町



白神山地を越える規模のブナ林の中にある殿様街道。土方歳三が松前入りするのを阻止するために準備された砲台跡が今も残されており、当時の面影を残しています。近年、中塚さんは殿様街道を通った歴史的人物を年表化することに専念し、巻物のように見ることが出来る閲覧機を制作中です。



福島町町史研究会 事務局長

### 中塚 徹朗さん

Tetsuro Nakatsuka



## 歴史を現代にひもとくきっかけづくりを

「この道は、箱館(函館)と松前を結ぶ道。土方歳三や榎本武揚など、歴史に名を刻んだ人々も通っているんですよ。」  
江戸時代から使われていたという「殿様街道」。福島町では街道にまつわる様々な歴史を解説しながら辿る「殿様街道探訪ウォーク」が2000年から開催されており、その歴史解説役を務めるのが中塚さんです。  
「最初、歴史には詳しくなくて、解説役を任されることになってから、必死に町史を勉強するようにになりました。」  
回を重ねるごとに歴史の魅力に引き込まれていった中塚さん。この他にも神楽と現代音楽のセッションが行われる「かがり火コンサート」を主宰するなど、伝統文化に触れる機会を積極的につくり出しています。  
「文化と産業は共に成長するものです。鯉の豊漁を願って、お神楽が生まれたように、よりよい生活には両方が必要です。」  
中塚さんは歴史を紐解くまなざしで、町の文化を育みます。

北海道 女だけの相撲大会 行司

### 馬躰 一廣さん

Kazuhiro Batai



## 名物行司がつくりだす優しさあふれる女相撲大会

横綱・千代の富士を輩出した福島町で、毎年5月の母の日に開催されているのが「北海道女だけの相撲大会」です。馬躰さんは、ユニークなお喋りで会場を沸かせる名物行司として大会を盛り上げてきました。  
「相撲を取ったことがない女性が多いでしょう。緊張した身体で取り組むと、怪我をするかもしれない。だから、冗談を言っただけであげられます。」  
馬躰さんは中学・高校で相撲部だったことから行司として白羽の矢が立ち、今年度の20回目ですべての大会で行司を務めました。全国から女相撲を目当てに観光客が訪れ、自分の町でも女相撲の行司を、と頼まれることもあるそうです。  
「女相撲のいいところは、転ばせた相手を心配するなど、女性ならではの優しさが土俵に表れるところ。強く、思いやりのある女性の素晴らしさを会場全体で感じられますよ。」  
馬躰さんの女性への優しいまなざしと、女性たちの一生懸命な取り組みが、女相撲のリピーターを増やし続けています。



福島大神宮 17代宮司

常磐井 武典さん  
Takenori Tokiwei

## 町の笑顔をつくりだす 松前神楽の系譜

真っ白な花をつけた満開のそば畑で、悠々と舞われるお神楽。福島町に300年以上前から伝わる松前神楽は、58年に最初の道指定無形文化財として指定されました。福島町では神事の時だけでなく、町内の他の行事にも舞われ、町内外の人々に親しまれています。

「松前神楽は33座もの舞がありますが、型を覚えただけではお神楽の魅力を伝えきれません。一生をかけて、身体に覚えさせるものだと思います。」

一人の宮司で6社ものお宮を兼務するため、練習は深夜から始める事もあるといいます。「お神楽の獅子舞などは、見ている人みんなが笑顔になります。その笑顔が町の元気のもとになってくれれば。」

世代が変わっても、町の伝統は脈々と伝えられています。



「北海道 女だけの相撲大会」には64人の出場枠がありますが、ここ数年はそれを上回る応募があり、断らなければいけないです。と馬跡さん。装束は国技館の行司も使っている本格的な衣装。町の大工さんの手作りだという軍配が、熱戦の勝敗を分けています。



常磐井家に代々伝わるお神楽の面。黒い面は子孫繁栄を願う舞「三番叟舞」、白い面は長寿健康を祈る「翁舞」に用いられ、節目の行事で披露される伝統の舞です。福島町ではお神楽を見る機会を増やそうと、野外での「千軒そばの花観賞会」が毎年おこなわれ、好評を得ています。

### 福島町ゆかりの文化の担い手たち

[九重部屋 親方 日本相撲協会審判部副部長]

秋本 貢(九重親方)さん

昭和の名横綱と名高い「千代の富士」として活躍。現役時代につくった、史上最多の通算勝ち星1045勝の記録はいまだ破られておらず、相撲界で唯一国民栄誉賞を受賞。'94年に引退、現在は九重部屋を継承して次世代の育成に励んでいます。

[福島町絵手紙なご美会 代表]

熊谷 正春さん

歩行が困難になった75歳以上の方々に、楽しみが増えるようにと2009年から絵手紙を送る活動をスタート。誕生日や古希などの記念日に届く、手書きの絵手紙は函館・松前でも人気を呼び、今後ますます活動を広げていく予定です。

[社団法人国土緑化推進機構認定 森の名手・名人 わら細工職人]

笹島 義廣さん

町の文化財のわらじ・蓑づくりの名人。森林と人とのあいだで育まれた文化を伝承している人を認定する「森の名手・名人」に平成19年に選ばれ、わらじ編みの講習会を開くなど、若い世代へバトンをつないでいます。

[白符荒馬踊り保存会 元会長]

乳井 英男さん

'68年に福島町の無形民俗文化財に指定された「白符荒馬踊り」の保存会の立ち上げから参加。会長を11年間務め、勇壮な軍馬の舞を第一線で披露してきました。今年3月に会長の座を譲り、後見人として伝統芸能の伝承に尽力しています。

[昆布細工職人]

鳴海 健児さん

福島町特産真昆布の売り物にならない破片を利用した、北前船の模型などの製作を2005年から開始。予定されている北海道新幹線をモチーフにした全長1m30cmの模型を製作し、「JR北海道」に贈呈するなど話題を集めています。

[福島町文化財調査委員]

米塚 誠さん

約70万点の土器や竪穴住居跡が見つまっているという「館崎遺跡」の調査、江戸時代から伝わる古文書の解読などを担当。他の地域へ古文書解読の講師として赴き、道内の歴史研究に尽力しています。

『childhood』



現代美術家  
鈴木 涼子  
Suzuki Ryoko



札幌市出身。2007年文化庁の新進芸術家海外研修員としてドイツで1年間研修。2005年第20回東川賞特別賞、2006年第15回道銀芸術文化奨励賞受賞。

日々の暮らしの中で感じる、微かな違和感や居心地の悪さなど、言葉にできないモノを、写真を主なメディアに使用して作品づくりを続けています。この『childhood』シリーズは、シリコンで子供や、女性の服を縫って写真に撮影しています。透明なシリコンがバックの色で染まったり、少し破けたり、汚れたりしていますが、これは、外部からの圧力を表現しています。

大声で叫んだら壊れてしま  
いそうな何か。  
埋もれて行きそうな声。

そんな目に見えない思いを、  
一つ一つ丁寧に取り上げてい  
ければ、と考えています。(鈴木)

「展覧会インフォメーション」

DOMANI・明日展2010

未来を担う芸術家たち

2011年1月23日(日)まで  
東京・六本木 国立新美術館

アートゼミ  
『コミュニケーション/  
表現教育へのアプローチ』

参加者  
募集

(財)北海道文化財団では、北海道及び北海道教育委員会との共催で、アートゼミ特別講座を開催します。

この特別講座は、アーティストの表現手法を用いて、子どもたちに芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の育成を図るため、学校教育関係者と文化芸術団体関係者が相互に協力するきっかけづくりとなることを目的に開催するものです。

**テーマ** 『児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業とは』

**日時** 平成23年1月14日(金)  
13時30分～15時30分

**会場** ホテル ライフォート札幌 4F「アニマート」

**参加定員** 100名(※先着順・事前申し込み制)

**参加対象** 小・中・高等学校・特別支援学校の教員、教育委員会関係者、文化ホール等の施設運営・管理団体、文化芸術及び教育の振興のための教育関係団体、公益法人、NPO法人、文化芸術団体、アーティストなど

**参加申し込み期限** 平成23年1月11日(火)まで

**共催** 北海道教育委員会、北海道

※詳細、参加申し込み方法等はホームページをご覧ください

平成22年度 北海道舞台塾公演  
「ぐるぐる、しない」開催のご案内

北海道舞台塾公演『ぐるぐる、しない』

脚本・演出／納谷真大

【下川公演】

**場所** 下川町公民館

**日時** 平成22年12月19日(日)19:00開演

**料金** 前売・当日／一般1,000円  
※高・中学生以下無料

【札幌公演】

**場所** かでる2・7 北海道鍼灸専門学校かでのホール

**日時** 平成23年1月14日(金)19:00開演  
1月15日(土)14:00/19:00開演  
1月16日(日)15:00開演

**料金** 前売／一般2,000円、当日／一般2,500円  
※高・中学生以下は無料(整理券が必要です)

詳しくは▶ <http://haf.jp/pdf/20101219.pdf>

※チケットはHPからもお申し込みいただけます。

●「ぐるぐる、しない」ホームページ  
<http://www.haf.jp/butaijuku/>



■北海道舞台塾とは

北海道、札幌市等と当財団により実行委員会を組織し、舞台芸術活動の活性化と裾野の拡大のために、以下の事業を実施しています。

- ・先進的創造活動の推進:道内の舞台関係者が制作する新たな舞台作品の公演等の提供
- ・地域創造活動の推進:地域に根ざした優れた舞台作品の選定と交流公演

静かに訴えかけてくるもの  
強く反射してくるもの  
生命からのささやきに敏感に耳をかたむけ  
真摯に向かいあうアーティストの作品を紹介します



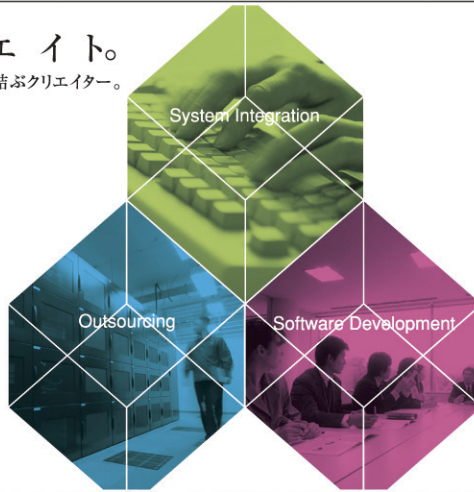
Materials : chromogenic color print  
Size : W70×H70cm

<http://www.ryokobo.com/>



## ITで未来をクリエイト。

私たちHBAは、お客様とお客様の未来を先進のITで結ぶクリエイター。



3つの事業をリレーション。

最適な情報システムの提案、構築、運用を  
万全のセキュリティで総合的にを行います。

● **システムインテグレーション事業**

求められるニーズに対し基本設計から保守に至るまで総合的なソリューションを行います。

● **アウトソーシング事業**

万全のセキュリティ対策で、お客様の事業における情報化投資の削減をサポートします。

● **ソフトウェア開発事業**

プロジェクトマネジメント力を生かし、確かな品質と最先端の技術力を提供します。

### 株式会社 HBA

〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目1番地8  
TEL.011-231-8301 FAX.011-281-0915  
<http://www.hba.co.jp/>

## オンリーワンの本づくり

「自分の本」を、  
思いどおりに  
つくって  
みませんか？



私たち「株式会社ぎょうせい」の本づくりには、出版社としての永年の経験に培われた確かな技術と、多くのお客様の信頼にお応えしてきた実績があります。

“本づくり案内人”（出版コンシェルジュ）が親身になって対応させていただきます。どのようなことでもお気軽にご相談ください。

※記念誌、作品集等の出版も賜ります。

【お問い合わせ】

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目2-2  
(株)ぎょうせい北海道支社 ソリューション営業課  
Tel : 011 (241) 1971 FAX : 011 (241) 1973  
HP : <http://www.gyosei.co.jp/mybook/>  
※ホームページでは自費出版に関するQ&Aなどを掲載しています。是非ご覧ください。

## 一本づくり案内人 PUBLISHING CONCIERGE

- ご宿泊
- ご宴会
- ご婚礼
- ご会合

RESTAURANT  
**スピカ**  
四川飯店  
CHINESE RESTAURANT  
地下レストラン  
【味の会】



ホテル札幌カーテンパレス  
TEL (011) 261-5311 FAX (011) 251-2938  
〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目(道庁南側)  
URL <http://www.hotelgp-sapporo.com/>



## 北海道吹奏楽フェスティバル 1月

14 開演/19:00~  
日 チケット(前売り一般) 2,000円  
共通券等も  
ございます  
15 開演/15:30~  
日 チケット(前売り一般) 1,500円

## 青島広志の 2月 おもしろクラシックコンサート

12日(土) テレビでおなじみの青島先生の  
楽しいコンサートです  
開演/11:00~  
(開場/10:30) チケット(前売り) 1,000円

## ちえりあ 3月 コンチエルト

5日(土) シューベルトの  
生誕200年  
開演/16:00~  
(開場/15:30) チケット(前売り) 1,000円

お問い合わせ

札幌市生涯学習センター  
札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10 Tel:011-671-2200

- アクセス
- 地下鉄東西線「宮の沢駅」地下直結
  - 宮の沢バスターミナル地下直結
  - 駐車場(西友共用)地下直結



ありがとう ちえりあ 開館十周年  
CHIERIA 10TH ANNIVERSARY